

J A 全農ちば

営農情報集

2023.

11

【今月の情報】

1. 令和5年産米振り返り
2. 病害虫防除（園芸）
3. 農薬散布器具の洗浄

【今月の気象（気象庁11/2発表 1か月予報より）】

11月は平年より気温がやや高い予報ですので、作物の生育状況に注意しましょう。また、最低気温が10℃を下回り始める時期ですので施設の暖房・露地の被覆などの管理が遅れないようにしましょう。病害虫の発生しやすい条件が多くなっておりますので注意しましょう。

【気温】



【降水量】



【日照時間】



■ : 低い ■ : 平年並み ■ : 高い

JA 全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています。
アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください。

HP : <https://www.agri.zenoh.or.jp/N_index.aspx>または「アピネス」で検索Q

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

令和5年度 水稻生産を振り返って

JA全農ちば
営農支援部

1. 令和5年産水稻 千葉県の作柄概況

関東農政局の作柄概況（10月13日公表）によると、令和5年産の作柄は10aあたり収量557kg（作況指数103）となりました（9月25日現在）。

表1. 令和5年産水稻の作柄概況

区分	作況指数	穂数の多少	平年比較		登熟の良否
			1穂あたりの もみ数の多少	全もみ数 の多少	
千葉県	103	少ない	やや多い	やや少ない	良

*農林水産省関東農政局 農林水産統計より

2. 時期別振り返り

(1) 育苗期

3月は気温が高く推移しました。気温上昇に伴って苗の生育が早まり、本田の準備（代かき作業等）に追われて育苗管理に手が回らなかったこと等により、苗が老化・徒長しやすい状況でした。

(2) 移植期から分けつ期

移植後の生育は、全体的に「草丈やや短く、茎数は少ない」状況でした。4月下旬以降は強風・突風の影響により、葉先の痛みが出ている圃場が散見されました。

気温・日照ともに平年より高く推移し、梅雨入り（6月8日ころ）していても、降水量はやや少ないため、中干しには適した状況でありました。

※5月7～8日にかけての降雨 → 48時間降水量が千葉県内各地で5月としては最多。

※6月8～9日 激しい雨 → 黄化萎縮病の発生が一部の地域から報告あり。

(3) 幼穂形成期から出穂期

4月20日植えのコシヒカリは6月22日頃から、5月1日植えのコシヒカリは6月28日頃に幼穂形成期を迎えました。

6月第4半旬以降、気温・日照ともに平年より高く推移し、降水量も少なかったため、田面が固まったほ場が多く見られました。

7月は平年より気温が高く、日照時間が長い状況で推移したため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より1日早く、「コシヒカリ」「粒すけ」は同4日早く出穂期を迎えています。

(4) 出穂後から成熟期

「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなり、いずれの品種も、出穂期の葉色は平年並みからやや濃くなっていました。

成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月8日、「ふさこがね」は8月14日、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月20日からと予測されました。

(5) その他

台風13号(9月8日)による記録的豪雨があり、刈り取り出来ていない圃場では、冠水、周辺圃場からの稲わらの覆いかぶさりによる被害が心配されました。

3. 5年産米の品質について

本年も猛暑であり全国的にも品質低下の中、千葉県産米では、「茶米が多い」、「胴割が例年より目立つ」状況ではあるものの、「白未熟粒が昨年より少ない」事により総じて等級の著しい低下はしていない模様です。

白未熟粒の発生が抑制された要因として、出穂期前後の日照条件が良好だった事、出穂後の登熟期間での夜温が一昨年、昨年に比べ低かったため、白未熟の発生はあったが、昨年ほどの多発にはならなかったと推察されます。

引き続き、基本栽培技術を励行し、極端化する気象に負けない米づくりを実践しましょう。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

気温が下がり、施設栽培では、保温のために夜間は閉め切る時期になりました。すでに最低気温が10℃を下回り始めている地域もありますので、温度管理には十分注意しましょう。また、降雨が多くなってくると病害の発生リスクが高まります。引き続き、早めの防除を徹底しましょう。

2. 果菜類(トマト・キュウリ)ー灰色かび病 **薬剤防除の前に耕種的防除を実施！**

(1) 除湿

灰色かび病は20℃前後の気温と多湿を好みます。夜間、ハウスを閉め切る時期は湿度が高くなりがちです。除湿のための天窓換気、暖房機による早朝加温、送風等を実施しましょう。また、薬剤散布はなるべく午前中に行い、ハウスを閉め切るまでに薬液が乾くようにしましょう。

(2) 施設圃場の管理

灰色かび病は、咲き終わった花卉や枯れた葉等に寄生してから健全な部位へと移っていきます。果実に付着した花卉や枯れた葉が残っていると、灰色かび病の発生源となります。同様に、発病した葉や果実を通路に放置せず、必ずハウスの外へ持ち出して処分しましょう。



発生源となる咲き終わった花卉

茎に発生すると被害が大きくなる

残さを通路に放置しない

(3) 薬剤防除

● トマト 灰色かび病 防除薬剤

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000~3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000~1500		3回以内	予防
1+10	ゲッター水和剤	1000~1500		5回以内	予防・治療

● キュウリ 灰色かび病 防除薬剤

FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日まで	7回以内	予防
7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000~3000		4回以内	予防
12	セイビアーフロアブル 20	1000~1500		3回以内	予防
2+10	スミブレンド水和剤	1500~2000		5回以内	予防・治療

3. トマト — コナジラミ類

(1) コナジラミ類

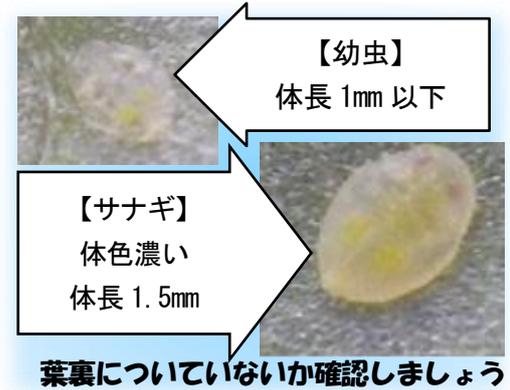
県内では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生しています。これらは共通して**黄化病ウイルス (ToCV)**を、タバココナジラミは**黄化葉巻病ウイルス (TYLCV)**を媒介します。千葉県による病害虫発生予報第7号(令和5年10月18日発表)では、これら両種および黄化葉巻病の今後の予想発生量が「**やや多**」となっています。早めの防除を行いましょう。



タバココナジラミ成虫

○薬剤使用時のポイント

- ア、コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう散布しましょう。
- イ、白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。
- ウ、同系統薬剤の連用は避けましょう。



(2) 薬剤防除

● トマト コナジラミ類 防除薬剤

IRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
6	アファーム乳剤	2000	収穫前日まで	5回以内
	アグリメック	500~1000		3回以内
4A	ベストガード水溶剤	1000~2000		3回以内
5	ディアナSC	2500		2回以内
28	ベネビアOD※	2000		3回以内
30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
9B	コルト顆粒水和剤	4000		3回以内
4C	トランスフォームフロアブル	1000~2000		2回以内

※被害の可能性があるためアミスター等のQoI剤との混用・隣接散布は避ける

4. キュウリ — コナジラミ類・アザミウマ類

ウイルス病の蔓延に注意!

(1) コナジラミ類

県内で発生するコナジラミはタバココナジラミとオンシツコナジラミです。特に、タバココナジラミはウリ類の退緑黄化病の病原ウイルス (CCYV) を媒介します。

(2) アザミウマ類

県内で発生するアザミウマはミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの3種です。特に、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそ病の病原ウイルス (MYSV) を媒介します。

(3) 耕種的・物理的防除

薬剤防除を行う前に**発生源となる周辺雑草の除草**、施設への**防虫ネット(0.4mmが好ましい)の設置**が重要な対策になります。また、**コナジラミ類は黄色**、**アザミウマ類は青色**の粘着板によって発生予察を行いましょう。

(4) 薬剤防除

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意! 転回・バック時は慎重に! 食の安全・安心 農薬散布器具は毎回必ず洗浄!

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

●キュウリ コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数
コ	9B	コルト顆粒水和剤	4000	収穫前日 まで	3回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2回以内
コ・シ	4A	ベストガード水溶剤	1000		3回以内
コ・ア	6	アフーム乳剤	2000		2回以内
		アグリメック	500		2回以内
	28	ベネビア OD	2000		3回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
ア	UN	プレオフロアブル	1000		2回以内
シ	15	カスケード乳剤	2000		4回以内

※1 コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類、シ：ミナミキイロアザミウマ

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

5. キャベツ — ベと病・黒斑病

降雨前後は要注意！

(1) ベと病

はじめ下葉に黄色いぼんやりした病斑があらわれ、しだいに拡大して、葉脈で区切られた多角形になります。病斑の裏側には白色のカビが霜のように発生します。比較的気温が低く降雨が続いた場合、感染が急拡大することがあるため、長い降雨後はすぐに防除を行いましょう。

(2) 黒斑病

結球期から収穫期にかけて下葉に発生します。病斑は2~10mm程度のくっきりした黒褐色の円形斑点で明瞭な同心斑紋を生じます。肥料切れの時に発生が多くなります。

(3) 薬剤防除

●キャベツ ベと病・黒斑病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ベと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	2回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ	1000	収穫30日前まで	3回以内	予防・治療
黒斑病	7	カンタスドライフロアブル	1500	収穫7日前まで	2回以内	予防
	7+11	シグナムWDG	1500	収穫7日前まで	2回以内	予防・治療
	11	アミスター20フロアブル	2000	収穫7日前まで	4回以内	予防・治療

6. ネギ — さび病・べと病

予防的な薬剤散布を実施！

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。また、夜間にもや・霧が発生する日は病害多発の恐れが高いです。天候に留意しながら防除を行いましょう。

(1) さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。20℃前後での発生が多くなり、一度発生してからでは防除が困難な病害です。予防主体の防除を行い、病斑が見られたら直ちに治療剤の散布に切り替えましょう。



さび病の病斑▷

(2) ベと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが発生します。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。感染から発病までは非常に速い病害です。**降雨前には予防剤を散布**し、降雨後も多湿圃場では被害の急拡大に注意しましょう。



べと病の初期病斑

(3) 薬剤防除

●ネギ さび病・べと病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
さび病	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日まで	2回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
さび病・べと病	M3	ペンコゼブフロアブル※	500~600	収穫14日前まで	3回以内	予防
	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防・治療
べと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫3日前まで	4回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ※	1000	収穫14日前まで	3回以内	予防・治療

※ペンコゼブフロアブルとリドミルゴールドMZは同成分(マンゼブ)を含むため、合わせて3回までなので総使用回数に注意

安全な農作物生産の取り組みについて

～農薬散布時の服装～

J A全農ちば
営農支援部

1. 農薬事故について

全国では毎年数十件、農薬の使用に伴う事故が発生しています。農林水産省の調べによると、平成29～令和3年度の5年間における農薬事故98件中19件(19.4%)が『**マスク、メガネ、服装等の装備が不十分**』に起因した事故でした。農薬のラベルにも薬剤ごとに注意事項が記載されています。事故を防ぐためにも、記載内容に従って適切な保護具を着用しましょう。

2. マスクについて 薬剤・用途に応じ選択

農薬を散布する際、散布液の粒子が飛散し、皮膚、鼻、口等から体内に入り込む可能性があります。マスクは数種類あります。農薬の剤型などに従い、適切なマスクを着用しましょう。

- (1) 農薬用マスク・・・国家検定合格の使い捨て式防塵マスク。農薬の粉剤および液剤を散布するときに着用します。農薬用マスクは原則使い捨てです。
- (2) 防護マスク・・・国家検定合格のフィルタ取替式防塵マスク。急性毒性の高い農薬（粉剤、液剤）を散布するときに着用します。
- (3) 吸収缶付防護マスク（土壌くん蒸剤用）
・・・国家検定合格の有機ガス用の吸収缶のついた防護マスク。クロルピクリン、D-Dなどのガス化（気化）しやすい農薬の使用時に着用します。吸収缶にも種類がありますので、間違いのないようセットしましょう。

3. 服装について 肌を露出しない、目・鼻・口を守る

農薬使用時は、防除衣や防止、マスク、メガネ、手袋、長靴などの保護具を着用しましょう。



農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意！ 転回・バック時は慎重に！ 食の安全・安心農薬散布器具は毎回必ず洗浄！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部